

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070501590		
法人名	有限会社 ダイテン福祉サービス		
事業所名	グループホーム なかよし		
所在地	〒802-0813 福岡県北九州市小倉南区東水町6番7号 093-953-0650		
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果確定日	平成25年12月03日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームなかよしでは地域密着グループホームとして地域の方との関わりを密に行なう事で交流の輪を広げている。又、ホームには季節の花々を植えており入居者様と職員で力を合わせ育て、開花する喜びを共有し合っている。協力医療機関による2週間毎の往診と、24時間による主治医の協力で健康管理は安心して任せられる体制である。また、認知症の進行を防ぐ為、入居者様の能力にあったプリント(ドリル)等を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

足立山の紅葉を眺望できる閑静な住宅地の一角に、ヘルパーステーション併設で、1ユニットの「グループホーム なかよし」がある。代表とホーム長の、福祉事業に対する熱い思いを、職員全員が理解し、「安心・信頼・満足」を理念の柱とし、笑い声が絶えない利用者との会話の中で、充実した日々を過ごし、家族から深い信頼と、安心に繋がる関係を構築している。利用者の健康管理は、かかりつけ医と、隔週往診の提携医療機関が連携し、職員の細やかな気付きで、早期発見、早期治療に取り組み、24時間安心出来る医療連携体制が整っている。また、地域の行事に利用者や職員が積極的に参加し、事業所の行事に地域の方が参加し、活発な相互交流が始まっている「なかよし」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成25年11月06日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、申し送り時に職員全員で声を出して理念を言っている。又、定期的に会議を開き理念や日々の方針・目標を具体的に職員に伝え、話し合いを行っている。	ホーム独自の理念、「安心・信頼・満足」を掲示し、毎日の申し送り時に毎回職員全員で唱和し、常に理念を意識しながら、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスに取り組んでいる。また、管理者と職員は、地域密着型事業所の社会的役割を認識し、地域の高齢者福祉事業に貢献出来るように努力している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事には入居者様、職員で積極的に参加している。又、地域の方には二カ月に一回の地域運営推進会議に参加して頂いている。	町内会に加入し、利用者職員は、地域の祭りや清掃活動、どんど焼き等に参加する事で、住民との交流が深まっている。また、近所の方の畑で採れた野菜の差し入れ、子供会による和太鼓の披露、ホームに高齢者の相談が寄せられる等、地域の一員として日常的な交流があり、頼られる存在として信頼関係を築いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて入居者様の日常、外出の様子、事業所の認知症の方に対する研修状況を地域の方々にお話しをしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の地域の方、民生委員、地域包括支援センター、利用者様家族、職員の参加で開催し入居者様の日頃の様子、行事報告を行うと共に紙芝居、カラオケ、避難訓練などを行い交流の機会にもなっている。	2ヶ月毎に定期的に会議を開催し、地域代表、家族、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの現状や取り組み、課題等を報告し、参加委員からは、質問や要望、情報提供等が出され、活発な意見交換会である。また、ボランティアによる催し物や、避難訓練も兼ねて内容のある会議になっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者ケア・制度に関する相談や判断に迷う時は行政担当窓口にご相談に行き、情報提供やアドバイスをもらうなど連携がとれている。又、ボランティアの受け入れ等の相談も行っている。	管理者は、疑問や問題点、ホームの状況を行政窓口へ報告し、情報交換しながら連携を図っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実態や運営状況を理解を得てアドバイスをもらい、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に会議を行い、その中で身体拘束、玄関の施錠について話し合いをしている。	職員会議や勉強会の中で、身体拘束廃止について職員間で話し合い、身体拘束が利用者にもたらす弊害について理解し、大声を出さない、ゆっくり話す等、利用者一人ひとりに合わせた優しい声かけの方法や、職員のペースで仕事しないように確認し合いながら取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で虐待について学び、職員同士で注意を払うなど虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度について利用者や家族が必要とするときに説明が出来るよう、地域包括支援センターの職員の協力のもと行なえるように努めている。	現在該当者はいないが、契約時に利用者や家族に説明し、理解してもらっている。職員は、勉強会で制度の仕組みを理解し、利用者や家族が制度を必要とする時には、申請手続きの方法を助言したり、関係機関の窓口を紹介する等して、制度活用に向けての支援に取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は入居者様、ご家族の方には十分な説明を行ない、理解・納得を図っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱を設置したり、家族会議にて意見を述べていただくような体制をとっている。	利用者の安心に繋がるよう職員がしっかりと寄り添いながら、利用者の要望を聴いている。家族の面会時に、利用者の暮らしぶりや健康状態を家族に伝え、要望や今後の方針の確認等を行っている。玄関には意見箱を設置し、苦情受付窓口を明示する等、利用者や家族が安心して意見が言える体制を整えている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議を定期的に開催して職員からの意見・提案を聞く機会を設けている。	毎月、定期的に職員会議を開催し、管理者は、職員が意見を言いやすい雰囲気作りを心掛け、新人職員にも意見を促す等して、活発な意見交換が行われている。全員で意見の内容を検討し、ホームの運営に反映出来るように努力している。また、定期的な食事会で、職員一人ひとりの思いを聴く機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各就業規則を職員がいつでも見れる場所に設置し、向上心を持って働ける様に耳を傾け、職場環境・条件の整備に努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に関しては、年齢・性別などを基準にしていない。高齢者に対する基本的な接し方や協調性を大切にし意欲を持った人を優先している。又、一人ひとりのスキルアップや自己表現にむけての協力体制も整えている。	職員の休憩室やロッカーを整備し、休憩時間の確保等、リフレッシュして働けるよう配慮している。職員の特技を活かした勤務体制や環境を整え、希望休に配慮し、働きやすい職場を目指している。資格取得のための支援体制も整え、職員のレベルアップに力を入れている。また、職員の募集は、働く意欲や人柄を優先し、年齢や性別の制限はしていない。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する研修は前回に比べ消極的である。積極的に取り組んで行く様に努める。	人権研修会の参加は少ないが、職員は常に理念を意識し、「安心、信頼、満足」を利用者に提供する事に丸となって取り組んでいる。毎朝の申し送りでは、利用者の尊厳を守る事を確認し、気付いた事は職員間でその都度注意し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスの提供を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が内外の研修を受ける機会を確保している。参加出来なかった職員にも会議等で伝達し、研修内容を共有している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修を通じて交流する機会を作っている。又、サービスの質を向上させていく取り組みに努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階でご本人様が困っていること、不安なこと、要望等がスムーズに言えるよう、環境整備に努めている。又、安心して生活ができるようご本人様の居場所を一番に確保する為の努力をしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が気兼ねなく発言できるよう環境整備に努め、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と話し合いをして他のサービス利用も必要か話し合いをしている。又、会議の中でも取り上げ職員の意見も参考にしご本人様、ご家族様が納得できるようなサービスに取り組んでいる。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来ること、出来ないことを見極め、食事の準備、片付け、居室の掃除等、入居者様の力を発揮していただけるよう取り組んでいる。又、日々のなかで職員と入居者様が助け合い、支えていく関係ができています。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での行事等の参加に積極的に呼び掛けご家族様、ご本人様が楽しい時間が過ごせるよう、又、共有できるような環境づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のご友人が気兼ねなく面会に来られるように職員は支援している。又、入居者様の馴染みの場所などは職員とドライブで行ったりと支援している。	利用者の友人や知人の面会時には、ゆっくり話せる場所やお茶等を提供し、何時でも来てもらえるように支援している。利用者の昔の職場や自宅、気になる場所等をドライブしたり、買い物や美容院へ同行する等、利用者の昔からの馴染みの場所や人との関係継続の支援に取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングには入居者様全員が腰かけていただけるソファを設置しており、自然と入居者様が集まって雑談できるようになっている。又、孤立しないよう職員が声掛けをおこない入居者様同士の会話に入っていけるよう促している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご家族の相談等に応じ関係機関に繋ぐなどしてご本人・ご家族様の支援に努めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様1とゆっくり話せる機会をつくり、意向や希望を把握できるように努めている。意思の疎通が困難な場合は、表情や行動で読み取るようにしている。又、ご家族様の協力を得て支援に努めている。	職員は、利用者と一緒に話し合い、「今何を望んでいるか、誰に会いたいのか、欲しい食べ物はなにか」等、丁寧に一つひとつを聴き取り、利用者との信頼関係を築きながら、本音の言葉を聴き出している。また、入居後の利用者同士の仲の良い関係や、職員との信頼関係も、新しい馴染みの関係として大切にしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員がいつでも入居者様のパーソナルデータを見れる場所に設置し、1人ひとりのこれまでの生活歴や生活環境を把握できるように努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の一日の状態、状況を職員は毎日の申し送りのなかで明確に伝えるよう努めている。又、会議にて入居者様1人ひとりの状況、状態を話し合う機会を作っている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議に介護計画を作成する職員が参加し、ご家族様の意向をもとに、本人様の現状、日々の状況、状態、それぞれの意見を話合せて介護計画を作成している。	職員は、家族の面会時に話す機会を設け、利用者と一緒に話し合う中から、利用者や家族の意見や要望を聴き取り、カンファレンスを開催し、関係者で利用者の介護計画を6ヶ月毎に作成している。利用者の状態に変化があった時には、家族や主治医と連携し、介護計画をその都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的な会議にて入居者様のケアや気付いた点などは個別に話し合いをしている。又、その時にでた意見は職員間で情報を共有しながら実践し、次回の会議にて結果を報告している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の状態、状況を細かく観察し、その時々生まれるニーズに対応している。又、いろんな機関への支援やサービスについて情報提供をするなど、サービスへの多機能化に取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二ヶ月に一回は地域のボランティアセンターからボランティアの方に来ていただき、バナナの叩き売り、マジックショーなど披露していただいている。また、地域住民の方、ご家族、入居者様も参加できるように支援している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望でかかりつけ医を選択してもらっている。又希望者には2週間に1回の往診を提供させていただいていると共に、24時間主治医との緊急連絡体制を整えるなど、いつでも往診可能な体制である。	利用者や家族の希望を聴き取り、かかりつけ医の受診支援をしている。家族が受診に同行する場合は、利用者の情報を提供し、結果を聞き医療情報を共有している。協力医療機関による2週間毎の往診と看護師との連携で、24時間の緊急時の連絡体制も整い、利用者が安心して、いつでも適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に一回の往診時に入居者様の状況、状態を看護師に伝え相談し、適切な受診、処置を受けられるように支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した病院に職員が伺い情報交換や相談ができるようにつとめている。又、いつ病院関係者から連絡があっても対応できるような体制を整えている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を契約時に説明に説明している。又、医療と連携しながら往診してもらえる医院があるが、今現在は病院での入院を希望されるご本人様やご家族が多い。	重度化や終末期について、契約時にホームで出来る支援について利用者や家族に説明し、了解を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と主治医を交えて、今後の介護方針を話し合い、利用者や家族にとって一番良い方法を関係者全員で考え、方針を共有し、利用者の重度化に向けた支援体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生への対応は全職員ができるように日々取り組んでいる。又、緊急時に備えて冷静に対応できるようマニュアルや緊急時の連絡先を職員の目の届く場所に設置している。訓練については定期的に消防署の方を招いて実践力を身につけるよう努めている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署の協力で避難訓練を行なっている。地域の方の参加、協力をお願いし共に協力関係を築いている。	消防署の協力と指導を得て、年2回避難訓練を実施し、運営推進会議時に、地域の方に参加してもらい、避難場所での利用者の見守りや連絡等、非番の職員との連携と合わせて、非常災害時の協力体制を確保している。また、非常災害時の非常食や飲料水、毛布等も準備している。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で入居者様一人ひとりの誇りと尊厳を損ねないように言葉かけに注意している。個人ファイルや記録類も他者が目に付かないように事務所に保管・管理している。	職員は、利用者の尊厳を守り、プライバシーの確保を徹底するために、職員会議や毎日の申し送りでも繰り返し話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した、利用者本位の介護サービスを実践している。また、利用者の個人記録の保管や、職員の守秘義務の周知徹底も図られている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人様が思いや希望をあらわしたり、自己決定ができるように表情や仕草に目を向けその場面にあった言葉かけができるよう職員は心がけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。起床・散歩・外出・買い物など入居者様の希望に沿った個別の支援を行ない、入居者様のペースを大切にしながら過ごし方に努めている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべくご本人様に自己決定していただき、外出時には気兼ねなくおしゃれができるように支援している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員と一緒に食事の下ごしらえから、配膳、下膳等に関わっている。	利用者の残存能力を活かして、料理の下拵えや配膳、下膳を手伝ってもらい、同じ料理と一緒に食べている。「もうすぐ食事の時間ですよ」と、利用者同士が声掛けし、楽しい食事の時間である。食材料費を抑えた予算の中で、調理上手な職員の創意工夫で、彩りの良い美味しい料理を提供し、利用者のほとんどが完食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように支援している。又、入居者様になるべく水分摂取、食事ができるよう職員が1人ひとりの状態に応じて、ミキサー食、栄養補助食品を提供している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院の指示のもと、1人ひとりの口腔状態にあった口腔ケアをおこなっている。又、ご本人様の力に応じた口腔ケアを行なっている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は入居者様の排泄パターンをや日常的な習慣を把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行なっている。	トイレでの排泄を基本とし、職員は利用者の排泄パターンを把握し、その人に合わせた声かけや誘導で、失敗の少ない排泄の支援をしている。声かけは出来るだけ耳元で行い、さりげなく誘導し、利用者のプライドや羞恥心に配慮したケアの実践に繋げている。職員は、リハビリパンツを履いての排泄を体験する事で利用者の不快感を実感し、利用者の気持ちに寄り添う支援に努めている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、食物繊維の豊富な食材を摂取したり、ご本人様の負担がかからない程度の運動を促したりと薬以外の予防や対応に取り組んでいる。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室の大きな窓から、浴室専用の庭園が見え、心地よい日射が入ってくるなど、気持ちよく入浴できる環境を作っている。入浴日の設定はあるが、入居者様の希望に合わせて、毎日入浴できるように支援している。	利用者の希望を優先し、何時でも入浴出来るように支援している。浴室は、広い窓から中庭の庭園が眺められ、柔らかな陽射しが入り、明るく開放的な空間で、ゆっくりと寛いで入浴する事が出来る。入浴が楽しみになるような浴室で、入浴を拒否する利用者はいない。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医と連携をとり1人ひとりが安心して睡眠がとれるよう支援している。又、職員は睡眠前の言葉がけにも注意をはらい、安心して休めるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも処方箋や薬手帳が確認できるように設置している。又、新しく処方された薬についても申し送り時に、薬の目的や副作用、用法や用量について説明し、職員の理解に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は入居者様の生活歴や役割など理解しており、入居者様に庭の手入れをお願いしたり、過去の職場にまつわる記念館に足を運ぶなどして支援している。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	ご家族、入居者様の希望や天候に配慮しながら、散歩に行っている。又、入居者様の健康状態に気を付けながら、みかん狩り、花見、ドライブなど安全に外出できるよう支援している。	利用者の希望や、家族の要望を聞きながら、花見、外食や買い物、地域の行事参加、日常的な散歩や畑の手入れ等を行っている。また、家族の協力で外出する事もあり、利用者の楽しみのひとつである。今月中旬には、みかん狩りとかんぼの宿での外食ドライブを予定しており、利用者や家族、職員が楽しみにしている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の所持金は主に事務所の金庫に保管しており、外出で必要な場合には、お金を所持したり使えるように支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が自ら電話したり、ゆっくりとお話ができるスペースをもうけたりして支援している。又、職員と入居者様が協力して手紙のやりとりができるよう支援している。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの天井には天窗を数か所設置して、開放感あふれる空間を作っている。又、共同空間には、季節を感じさせる作品を飾り、キッチンからは食事の準備の音や香りが漂い生活感ができるように工夫している。	利用者が一日の大半を過ごすリビングルームは、開放的で、天窗からの日射しは柔らかく、台所からの包丁のリズミカルな音や、美味しい匂いに誘われて利用者が集まり、穏やかに楽しいひと時である。仲の良い利用者同士の会話や、テーブルに広げた洗濯物を皆で手分けして置く様子は、大きな家族の様で温かな雰囲気である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファやイスを設置しており、独りでも、入居者同士でも過ごしやすい居場所の工夫をしている。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみのある装飾品、家具、仏壇、写真などを持ち込んでいただき、出来るだけ自宅と変わらない環境で、居心地よく過ごせるように配慮している。	居室は、利用者の馴染みの家具や寝具、仏壇、お気に入りの小物、写真等を、家族の協力を得て持ち込んでもらい、出来るだけ自宅のようなその人らしい雰囲気作りを心掛け、利用者が穏やかに落ち着いて暮らせる、居心地の良い居室となるよう工夫している。また、清掃も行き届き、清潔感のある居室である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全室バリアフリーになっており、又、リビングからは内部全体が見渡せるようになっている。入居者様がいつでも職員を見つけれ、声が掛けられるように工夫している。		